

平成 26 年度事業計画書

学校法人千葉工業大学

■ 高等教育を取り巻く環境

グローバル化した国際社会は、一部地域の問題が瞬時に世界中に影響を与え、先進国から途上国まで世界の国々の関係は緊密度を増してきている。欧米先進国では景気の下振れリスクが後退し、景気は徐々に力強さを増してきているが、中国経済は減速基調が見られ、世界経済は引き続き不透明な状況が続いている。

国内では、東日本大震災から三年が経過し、復興が一步ずつ進みつつある中、福島第一原発の事故処理はいまだ不透明な状況が続いている。経済を中心とした社会状況は、アベノミクス効果が徐々に表れ始め、株価、為替、雇用などに明るい兆しが見え始めている。今春の春闘では大手企業を中心に十数年ぶりにベアが実施され、失業率も僅かではあるが低下がみられている。

これら国際情勢の変化や国内社会の動向を踏まえ、文部科学省は、グローバル人材の育成、イノベーションの創出、経済再生、地域再生・活性化への貢献など、大学に求める社会的役割を明確に示し、これを実現するために大学のガバナンス改革を強く求めている。

■ 本学の現状

一昨年に創立 70 年の節目を迎え、昨年からは創立 100 年に向けて新たな取り組みを実行している。

教育研究では、昨年度より様々な教育支援改革が実行に移され、具体的な成果を上げつつある。SA（ステューデントアシスタント）制度の導入によるきめ細やかな指導、補充授業の充実など学習支援を強化し、退学者・留年者の抑制にも積極的に取り組んでいる。

震災復興への支援としては、引き続き未来ロボット技術研究センターが中心となって進めており、昨年は「櫻式號」を開発し、更なる支援に備えている。

平成 24 年 5 月に開設した東京スカイツリータウンキャンパスでは、Area I に原発対応ロボットや火星探査操縦シュミレーターを設置する一方、本年 2 月に Area II を開設し、惑星探査研究センターの活動を中心に体験型アトラクションを展開し、本学の最先端の研究成果を広く社会にアピールする場として積極的に活用している。開設から既に 29 万人以上の来場者を迎えており、今後も展示内容の更新を進め、引き続き本学の研究成果の発表の場として活用していく。

本学の一般入試志願者動向は、教育研究体制の充実、入試制度の改革、積極的な広報展開、キャンパス再開が一段落したことによって回復基調にある。平成 26 年度入学試験では過去最高の志願者数となった。しかし、この結果に満足することなく、教育課程改革、修学支援体制の更なる充実やキャリア教育の拡充など、総合的な学生支援体制の強化を今後も進めていく。

■ 平成 26 年度事業計画

1. 教育研究

本学が有する教育研究能力を十分に発揮するため、学長裁量による教育研究予算の重点配分や各学科の意向を反映した弾力的な予算運用を実施しているが、平成 26 年度もこれを継続し、教育研究の更なる活性化を推進する。また、教育方法改善に対する教員の工夫・努力を適切に評価し、FD（ファカルティ・ディベロップメント）の継続的な推進を図る。

現在大学として重点的に取り組んでいる留年者や退学者の抑制策については、学長のリーダーシップのもと、追加的な補習授業の実施や再試験制度の新設により、授業の到達目標や評価基準を維持しつつ、留年者及び退学者の減少に効果をあげている。平成 26 年度もこれらの諸施策を継続するとともに、学生サポーター制度や博士教育補助員制度を有効に組み合わせ、活用することにより、多様化する学生に対してきめ細かい学修支援を実施する。また、学部・大学院の新入生全員に貸与しているタブレット型端末を有効活用し、学生と教職員間のコミュニケーションを促進し、教職協働による学修支援態勢を今後も継続する。キャリア教育については、1 年次からの教養科目としてキャリア科目を新設し、体系的なキャリア教育の充実を図る。

大学院においては、本学附属総合研究所等と連携した教育研究体制を充実させるとともに、秋入学の実施等により、留学生も含めた学生数の確保を図る。また、大学院生のプレゼンテーション能力、語学能力の向上のための全専攻共通科目を開講する。

産官学連携については、附属総合研究所及びリエゾンセンターの機能を更に充実させ、研究の活性化と社会連携の強化を推進する。また、平成 25 年度に大幅な整備・改革を行った研究費の適正使用に関する管理体制については、今後も厳格な管理・運営を行い、大学の社会的責任を果たすよう努める。加えて、安全保障貿易管理についても、管理体制の整備を進める。

国際化については、海外の大学との交流協定を引き続き積極的に拡大し、留学生の受入れ及び本学学生の海外留学とともに増加させる。そのため、本学学生の語学力を向上させる企画を学部低学年から参加できるような形態で開催し、海外留学への興味と基礎力を醸成する。また、金融・経営リスク科学科国際コースの設置を嚆矢として、世界で活躍できる技術者を養成する基盤作りを進めるとともに、新学生寮を大学のグローバル化に積極的に活用し、日本人学生と留学生等との交流のための諸制度の整備に取り組む。

なお、本学は平成 28 年度から工学部の改組を行うべく準備を始めており、平成 26 年度中に文部科学省への事前伺いの書類を提出する予定である。激しい変化を続ける社会に対応すべく、新たな学部・学科体制で時代の要請に応え得る人材の養成を目指し、今後新たなディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づき、教育課程編成等を行う。また、平成 26 年度は認証評価機関による第三者評価受審の年であり、6 月には自己点検評価報告書を提出する予定である。

〔具体的項目〕

- (1) 学生の満足度向上へ向けた継続的対応
 - ① 学生生活アンケート調査の改訂と実施
 - ② 授業アンケート調査の活用
 - ③ 自己発見レポートの活用
 - ④ ICT を活用した総合的なサービス
 - ⑤ 単位互換制度
- (2) 留学生の派遣及び受け入れ体制の充実
 - ① 留学生への支援の充実
- (3) 学生支援の充実強化（学生相談，課外活動，学生寮，奨学金等）
 - ① 学生相談（カウンセリング，S A）
 - ② 課外活動支援の充実
 - ③ 学生寮生に対する支援
 - ④ 奨学金支援活動
 - ⑤ 学生サポーター制度（S A）
- (4) 学生共済会の充実
 - ① 見舞金給付
 - ② 学生納付金貸与制度
 - ③ こころとからだの元気サポート
 - ④ 暮らしの法律相談
 - ⑤ 損害保険
- (5) 入学前教育の充実
- (6) 教養基礎教育カリキュラムの充実
 - ① TOEIC 試験実施
- (7) 初年次教育の充実
 - ① キャリア教育の実施・充実（学習技術含む）
 - ② 学習支援センターの充実
- (8) 教職員が連携した就職支援の強化
 - ① 学生個々へのアプローチ
 - ② 学科独自の支援行事の実施
 - ③ 企業交流の拡充
- (9) キャリア教育科目実施サポート
- (10) キャリア形成支援プログラムの強化
 - ① 新規プログラムの実施
 - ② 現行プログラム実施・検証
 - ③ 資格取得講座の開講
- (11) 保護者向け就職支援プログラムの実施
- (12) インターンシップの促進
- (13) 新入生に対する少人数制による総合的な支援
 - ① オリエンテーションの実施
 - ② クラス担任制

- (14) 習熟度別教育の充実
- (15) JABEE（日本技術者教育認定機構）継続申請に向けた取組
- (16) FD（ファカルティ・ディベロップメント）の充実と研究・教育業績の多面的評価の推進
- (17) 競争的研究資金等公的研究費獲得支援
- (18) 平成 26 年文部科学省公的研究費の管理・監査のガイドラインに伴う対応の整備
- (19) 経常費補助金特別補助事業の強化
- (20) 研究状況・成果の積極的広報展開
- (21) 図書館各種資料の活用を促進し、大学の教育・研究資源の充実
- (22) 自ら学ぶこと（アクティブラーニング）による発見・体験や知識の修得を高めるための環境整備
- (23) 図書館利用者の要求に対応した各種資料の効率的な調達
- (24) 海外交流協定校の新規開拓
- (25) 積極的な留学生の派遣及び受入れ
- (26) 堅実な入試運営と質の高い入学者の確保
- (27) 大学広報展開によるブランディング向上
- (28) 学外大型プロジェクト研究への参画
- (29) 新型ロボットプロジェクトの継続的推進
- (30) 原発災害対応ロボットの研究
- (31) 国際宇宙ステーションからの流星観測
- (32) 「はやぶさ 2」搭載機器開発
- (33) 超小型衛星流星観測プロジェクト

2. 管理運営

新習志野キャンパスの学生寮竣工後は、学生寮敷地周りの外構整備工事に着手する。学生寮南側の空地に一般学生が使用する野球場やテニスコート、フットサルコートを整備し、茜浜運動施設には多目的屋内練習場の建設を進めるなど、学生生活の満足度向上に繋がる計画を遂行していく。

一方、閉寮となる千種寮においては、寮閉鎖に伴う諸工事や一部建物の解体工事を検討していく。

既存建物の維持・補修に関しては、昭和 61 年に竣工した新習志野キャンパス建物群の老朽化が進んでいる事から、まずは新習志野キャンパスにおける中長期的な建物改修計画を早急に検討していく。

また、運転時間の過多による老朽化が著しい津田沼キャンパス 8 号館の空調更新工事や、3 カ年計画で実施している講義室 AV 機器リプレース工事等の大型工事については、今年度も国からの補助金獲得を視野に入れつつ工事を遂行していく。

〔具体的項目〕

I. 施設・設備関係

- (1) 津田沼・新習志野校地：AV 機器デジタル化対応工事
- (2) 津田沼校地：8号館 空調設備更新工事及び太陽光発電設備設置工事
- (3) 津田沼校地：浄化槽整理計画
- (4) 新習志野校地：8号館 屋上防水・外壁改修
- (5) 新習志野校地：学生寮周辺 外構整備工事及び外周道路の舗装工事
- (6) 千種寮：寮閉鎖に伴う各種整備工事
- (7) 茜浜運動施設：多目的屋内練習場 新築関連工事

II. 組織等

- (1) 継続した学生支援業務，教育研究サポート業務の充実のための事務対応強化
- (2) 研究費の不正使用防止に向けた発注・検収業務の強化
- (3) 自己点検・評価の実施及び認証評価受審準備
- (4) 安定的な経営基盤の確立を目指した財務運営
- (5) SD（スタッフ・ディベロップメント）を目指した各種研修の継続実施
- (6) 公的研究費等に関して不適正使用再発防止の観点から監査精度を上げた監査の実施
- (7) 業務監査の一環として教職員のコンプライアンスについて「自己管理型のチェックリスト方式」の点検継続実施
- (8) 財産、機器備品等について実査を行うとともに、随時必要な監査の実施

以上